

第14回 桃太郎カップ水球 【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター

【2021/12/26】

男子準々決勝

岡山県選抜 11

3	—	0
1	—	1
2	—	3
5	—	2
PSO		

6 長崎県選抜

審判： 荻野 浩明
宇田川 佑里子

岡山県選抜	23	SH数	23	長崎県選抜
	11	速攻数	8	
	8	ST・SB	6	
	11	SH・P誘発アシスト	7	
	60%	GK阻止率	42%	
	4	EX反則数	8	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

開催県の岡山が上位進出のためには乗り越えなければならない長崎戦。長崎は中学生メンバー中心ながら、泳ぎもシュート力十分に備わったバランスのいいチーム。かなり拮抗した展開が予想され、勝負の行方は後半勝負が予想される。

1P

岡山は1回戦の山形戦ほど、全員での攻め上がりを選択せず、長崎側の攻撃に備えた展開で試合がスタート。岡山の軸の原に対しては徹底マーク指示が長崎にあった。それでも長崎の退水攻撃を岡山GK小高がセーブし、そこからセンター位置の原にボールが渡って個人技で防御を突破しての先制。立て続けに、岡山側が長崎から退水を奪って連続加点し、岡山3-0長崎というスタートを切った。

2P

第2ピリオドでは岡山がセンターボールを取ってからセンターで退水を奪い、そこを原が決めて4点差として岡山側が主導権を握った展開に。しかし、ゲーム序盤からの岡山側は人数をかけない攻撃のために突き放しには至らず、徐々にペースが出てきた長崎が岡山のシュートミスからセンター位置で山下が決めて1点を返して前半を折り返した(岡山4-1長崎)。

3P

攻撃力は岡山側優勢であったが、ゴール前で得たペナルティを決めることができず、そこを長崎・山下に決められ2点差に迫られた。長崎に流れが傾いたのを止めたのは岡山のエース原。センター位置での個人技で5点目を奪い、3点差に広げた。その後、長崎・梶原にセンター位置から連続得点されたが、ピリオド最後にはきちんと岡山らしい速攻で荒木が決め、岡山6-4長崎で最終ピリオドへ。

4P

最終ピリオドに入ると、長崎はやや疲れを見せるようになって出足が弱く、シュートを岡山GK小高にセーブされたあとの岡山攻撃を止めることができず、ペナルティ2本を含んで一気に4連続得点を与えてしまい、岡山勝利が決定的となった。最終的には岡山11-6長崎と、点差が開いた形となったが、長崎は臆せず積極的にシュートを放ち、そのリズムから攻守にわたってテンポのいい水球を展開できたことは今後の成長につながるものがあった。

【プレー分析から】

シュート数は双方全く互角であったが、GKのセーブ力で岡山側が優勢で、それを起点にしたプレーで得点したことが大きな勝因となった。岡山側はペナルティを4本得たが、シュートミスが2本、そのうち1本は失点に直結するなど、シュートに課題を残した。シュートのほとんどがGK付近(水面近く)で、ゴールの上側を狙ったシュートがほとんどなく、こうしたシュートコースもさらなる向上を期待したいところ。両チームともに、シュートミスが起点となった失点が目立ったことから、さらなる上位進出にはシュート時のカバーや相手の動きを封じるディフェンスが課題であろう。